

平成 12 年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 大田原 俊輔 先生

大田原俊輔教授は昭和 31 年に岡山大学医学部を卒業、同・大学院で小児科学を専攻され、小児科学教室に昭和 32 年に入局された。大学院では、当時まだ未開拓であった小児脳波学研究を開始されるとともに、「各種のてんかんに対しγアミノ酪酸並びに関連物質の及ぼす影響に関する臨床的研究」により医学博士の学位を授けられた。

つづいて、小児神経学に関する研究の中で、とくに小児脳波の発達に関する研究とともに、小児てんかんの診断と治療および成因、病態生理に関する系統的研究に特別の関心と努力を傾注された。

岡山大学小児科学教室において、先生は脳波研究室を主宰され、昭和 40 年には、現在でも正常小児脳波の標準知見とみなされている「脳波の発達、自動周波数分析による正常小児脳波の発達に関する研究」を完成されている。その後、急速に進歩した医用電子工学をヒトの中樞神経系の発達現象の解明に応用され、その規準知見を確立するとともに、発達脳波学さらに発達神経生理学の概念とその領域を開拓された。

これを重要な研究方法として、小児てんかん学や各種の発達障害(精神遅滞、脳性麻痺、行動異常など)の研究を広汎に進められた。また、早くから地域調査による神経疫学研究の必要性を強調され、脳性小児麻痺、重症心身障害児に関する調査を岡山において実施されたが、その経験をもとに、後に「岡山県における小児てんかんの神経疫学的研究」が行われた。

先生は岡山大学小児科講師、助教授を経て、昭和 53 年に新設された岡山大学医学部脳代謝研究施設発達神経科学部門の初代教授に就任された。また、早くから小児神経学の独立を推進され、対応診療科として小児神経科を創設された。さらに、本邦で初の医学部小児神経学講座を創立され、初代教授として、国内外に広く活動された。その間、日本小児神経学会、日本てんかん学会、日本脳波・筋電図学会、日本小児科学会、International Child Neurology Association、てんかん治療研究振興財団の各理事を務められ、前三者学会では会長として、総会、学術大会を開催されたほか、国際シンポジウム「小児てんかん学の新しい潮流」を開催された。また、日本てんか学会認定医(臨床専門医)委員会委員長として、この認定医制度の設立に尽くされた。

国際的には International League Against Epilepsy の小児てんかん委員会委員(2 期)、機関誌 Epilepsia 編集委員(2 期)、そして、先般第 23 回国際てんかん学会議の Advisory Board, Pacific Rim Epilepsy Working Group 日本代表などを務められた。

その他、Epilepsie-Blaeter, Brain Topography, Brain and Development, Epileptic Disorders 等の編集委員を務められている。

先生のご業績の全貌を尽くすことはできないので、てんかん学研究の中から特筆すべきものを選んで記させていただきます。

1)小児てんかん学における発達の視点の導入

現在では、年齢発達に伴う病像の変容とか、経過型という臨床的概念は周知であるが、早くからその重要性を強調され、初めて発達てんかん学の概念を提示された。また、ヒトの脳疾患であるてんかんにおける発達の研究にはヒトの脳を対象とすべきという考えを強調された。

2)早期乳児てんかん性脳症(大田原症候群)の発見と年齢依存性てんかん性脳症の概念の確立この臨床的概念は West 症候群および Lennox・Gastaut 症候群の臨床的脳波学的研究と発達神経学的研究および発達脳波学的研究から結実し、早期乳児てんかん性脳症は「てんかんおよびてんかん症候群の国際分類(ILAE,1989)」の1項目に採用された。

3)睡眠生理学、睡眠脳波学のてんかん研究への導入

年齢依存性てんかん性脳症の各型における終夜脳波研究から睡眠脳波の特徴や、さらに誘発性微小発作を明らかにされた。

4)その他の新しい病型の研究と概念形成

Severe epilepsy with multiple independent spike foci や

Nonconvulsive status epilepticus with negative myoclonus の研究。

5)活性型ビタミン B6 大量療法の開発

West 症候群の初期治療法として現在広く採用されている。

6)小児てんかんにおける治療成績の向上

精密な診断と脳波所見を重視した治療方針により、寛解率 82%を達成された。

7)小児てんかんの神経疫学的研究

岡山県における小児てんかんの調査成績は対象例数が最大規模で、国際的にも高く評価された。

このように、小児てんかん学およびてんかん医療の進歩に多大の貢献ををされ、平成 3 年には日本てんかん協会木村太郎賞を受賞された。さらに、1999 年にはてんかんの医療および研究と教育に関する国際的な貢献に対し、国際てんかん連盟および国際てんかん協会より The Award of Ambassador for Epilepsy を授与された。

また、後進の指導と教育を地方においても積極的に行われ、岡山小児てんかん懇話会、岡山てんかん懇話会、中国四国點頭てんかん研究会を設立して、てんかんの医療の普及に努められた。

以上のように、大田原教授のてんかん学並びにてんかん医療における御貢献は真に顕著であり、わが国の小児てんかん学並びにてんかん医療を国際的水準に高められたと申せま

す。

岡山大学医学部附属病院 小児神経科教授

岡 鉦次